

◆ばんどう文芸◆

短歌

今井 清 選

空洞の幹になほ咲く枝垂れ桜寺の跡地の記念碑照らして

駒 跣 内海 妙子

無人駅和装の夫人が降り立ちて耕運機の荷台に揺られ帰りぬ

小 山 間中満喜子

昼時に店に入ると声かけるマスクしてない顔に戸惑う

生 子 木村 政明

雨上がり道の窪みの水溜まり小鳥が喉を潤す春か

菅 谷 根芝 貞夫

青空を切り裂くごとく飛翔する燕の勇姿今年も届く

長 谷 荒井 勝

重力を強く踏みつけペタル漕ぐ新入生の口元厳し

岩 井 臺 登美男

三歳に急かされ歩く神社まで鰐口の鈴鳴らしゆくツアー

長 須 藤井 由佳

アルプスの雪山見ゆる高遠の天下一番の桜に憩う

長 谷 滝本 和子

真っ白なトンネルの上ほこり舞い砂漠のような村の野良道

長 須 平田とみい

漸くに咲きし桜はまたしても雨にたたられ風に揺さぶられ

山 栗原やエ子

寒もどり遅れた桜ありがたし入学式に親子が出向く

長 谷 後藤 守

咲き誇る桜の下に転げ見ゆ蛇の髭の玉瑠璃色密かに

沓 掛 木村 愛子

【評】一首目、作者はこの寺の後継ぎであった。読者の多くは知っていよう。現在も境内の一角に住んでいる。結句を明るい言葉で結んでいるのが感じ良い。二首目、純然とした写生の歌だがいろんな事が想像できる。迎えに来たのは百姓の旦那さんであろう。なんで和装をしているのか。自家用車や自転車を迎えにきたのでは、歌にならない。興味ある眼差しで見ている。最後の歌、「蛇の髭」は「龍の髭」ともいう。桜に呼応して歌が美しい。自分も子供の頃、宅地や山林でよくこの玉を見たので懐かしい。

短歌の作品を募集します！

皆さんからの短歌を広く募集します。投稿される方は、住所・氏名・年齢・電話番号を記入し、掲載希望月の前月20日までに届くように選者宛にお送りください。なお、俳句につきましては、当面の間お休みさせていただきます。

選者 今井 清 〒306-0604 幸田新田435 ☎0297(35)2864